

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	松戸市こども発達センター 通園施設			
○保護者評価実施期間	R6年11月14日		～	R6年11月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	78	(回答者数)	69
○従業者評価実施期間	R6年11月14日		～	R6年11月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	43	(回答者数)	43
○事業者向け自己評価表作成日	R7年3月28日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・こどもの発達に合わせた支援	・ガイドラインにおける4つの役割(本人支援・移行支援・家族支援・地域支援)を定めた上で、本人支援については5領域の支援(「健康・生活」、「運動・感覚」、「認知・行動」、「言語・コミュニケーション」、「人間関係・社会性」)を体系立てて作成、実施し、評価している。	・本人支援に関して、個々の障害の状態及び発達の過程・特性等に応じた支援を、職員一人ひとりが実施していく。 ・集団療育という場で、こども同志の関係づくりにもさらに取り組んでいく。
2	・丁寧な保護者対応	・連絡帳、電話、メール、個人面談等で、保護者とは細かな情報共有をしている。	・懇談会、保護者向け研修等、保護者同志の関わりも大切にしなが、情報共有の場を提供していく。
3	・支援における専門職との連携	・日々の療育の中で、こどもの特性に応じた対応について、専門職(医師、看護師、栄養士、PT、OT、ST、ORT、心理士)と相談できる体制がある。	・今後も、積極的にクラス担任が、専門職とやり取りをしながら、より良い支援ができるよう連携を強化していく。 ・専門職の研修を受ける機会を増やす。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・センターとして中枢的機能の役割の不全化	・巡回相談や保育所等訪問支援事業により、健常児が通う施設への支援は出来ているが、通所支援事業所への支援体制が整っておらず、特に、就学後の児が通う施設への支援については、市と協議していく。	・スーパーバイザーを配置し、地域連携を強化していく。 ・発達支援・家族支援のための研修を開催していく。 ・保育所等訪問支援やこども部会等による障害児通所支援事業所との連携を強化していく。 ・年間通しての保育所等交流等、インクルージョン機能を強化していく。
2	・ICT導入の遅れ	・保護者からの要望はあるが、事務時間の確保、個人情報の取り扱いの難しさから、ICT導入の検討が始まっていない。	・まずは、ICT導入によるメリット、デメリットの検討を行い、他市の児童発達支援センターの状況も調査しながら、実現可能か、取り組んでいく。 ・指示書等、簡素化できる書類については、R7年度に見直していく。
3	・こどもの生活空間の環境調整の困難さ	・松戸市健康福祉会館の施設の老朽化に伴い、空調設備の調整の困難さや収納場所の確保の難しさ等がある。	・こどもや職員にとって安心・安全な環境づくりを心がけ、引き続き、環境整備を進めていく。 ・遮熱シートの貼用、遊具やテーブル、椅子の点検・交換等、予算に応じて優先順位を決めて進めていく。